

## 低炭素都市なごや戦略実行計画

本計画は、「低炭素で快適な都市 なごや」を目指した「低炭素都市 2050 なごや戦略」に基づく 2020 年までの実行手順を示すもので、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく法定計画でもある。

気候変動問題に対処するための温室効果ガスの削減と、東日本大震災以降更に重要性が高まっている省エネルギー・自然エネルギー問題への対応、今後の人口減少・少子高齢化に対応する本市の特徴を踏まえた「まちづくり」を含めた計画となっている。

### ■2020 年までの施策（一部抜粋）

- 駅そば生活～歩いて暮らせる駅そば生活～
  - ・駅そば生活圏の構築（低炭素モデル地区）
- 風水緑陰生活～身近な自然を享受できる生活～
  - ・緑陰街区・緑陰街路づくり
- 低炭素住生活～自然と超省エネ機器を活用した快適な低エネルギー生活～
  - <くるま>
    - ・道路空間の活用などによる歩行者・自転車シフト
  - <すまい>
    - ・次世代省エネ住宅・建築物の普及
  - <しごと>
    - ・事業所における温室効果ガス排出量の見える化、排出削減行動の推進
  - <地域エネルギー>
    - ・自然エネルギーの積極的な導入促進
- 低炭素社会を支える協働パワー
  - ・世代に応じた環境教育の展開と課題解決型の人材育成

### ■温室効果ガスの削減目標

目標年度：2020 年 削減率：▲25%（基準年 1990 年度比）

## ■温室効果ガス排出量の現状

### ○2010 年度（確定値）

- ・2010 年度の温室効果ガス排出量は、基準年である 1990 年度から 21.5%減少した。
- ・2010 年度は、リーマンショックによる景気後退から、やや回復傾向にあることに加え、夏の記録的猛暑の影響等により、エネルギー使用量が前年度と比較してやや増加した。しかし、電力事業者による京都メカニズムクレジットの活用等により、電力原単位が改善されたため、全体として温室効果ガス排出量の減少につながったと考えられる。

### ○2011 年度（速報値）

- ・2011 年度の温室効果ガス排出量は、基準年である 1990 年度から 12.8%減少した。
- ・東日本大震災後の原子力発電所の停止等に伴い、電力原単位が悪化したことにより、温室効果ガス排出量が前年度より増加する結果となった。
- ・エネルギー消費量は前年度より減少している。また、2002 年度から減少傾向が続いており、市民・事業者の省エネ・エコライフ、エネルギー転換などが定着してきたことがうかがえる。

(万トン-CO<sub>2</sub>)

区分	1990年度 (基準年)	2009年度	2010年度 (確定値)	2011年度 (速報値)	2020年度 (目標)
温室効果ガス 排出量	1,739	1,467	1,365	1,518	1,310
基準年比		△15.6%	△21.5%	△12.8%	△25%
前年比		△ 5.2%	△ 7.0%	+11.1%	

※表中の排出量は京都メカニズムクレジット反映後の値。なお、京都メカニズムクレジット反映前の値は、2010 年度が 1,587 万トン-CO<sub>2</sub>（基準年比 8.7%の減少）、2011 年度が 1,595 万トン（基準年比 8.3%の減少）。

## ■温室効果ガス排出量の 2020 年までの必要削減率

温室効果ガスの削減目標（2020 年に、基準年である 1990 年度に 25%削減）に向けて、2010 年度までに基準年比 21.5%削減しており、今後さら 2010 年度比 4.1%の削減が必要である。

なお、2011 年度の速報値では、基準年比 12.8%削減となり、目標までに必要な削減率は 2011 年比 13.7%となる。

(万トン-CO<sub>2</sub>)

温室効果ガス排出量の現状と目標

